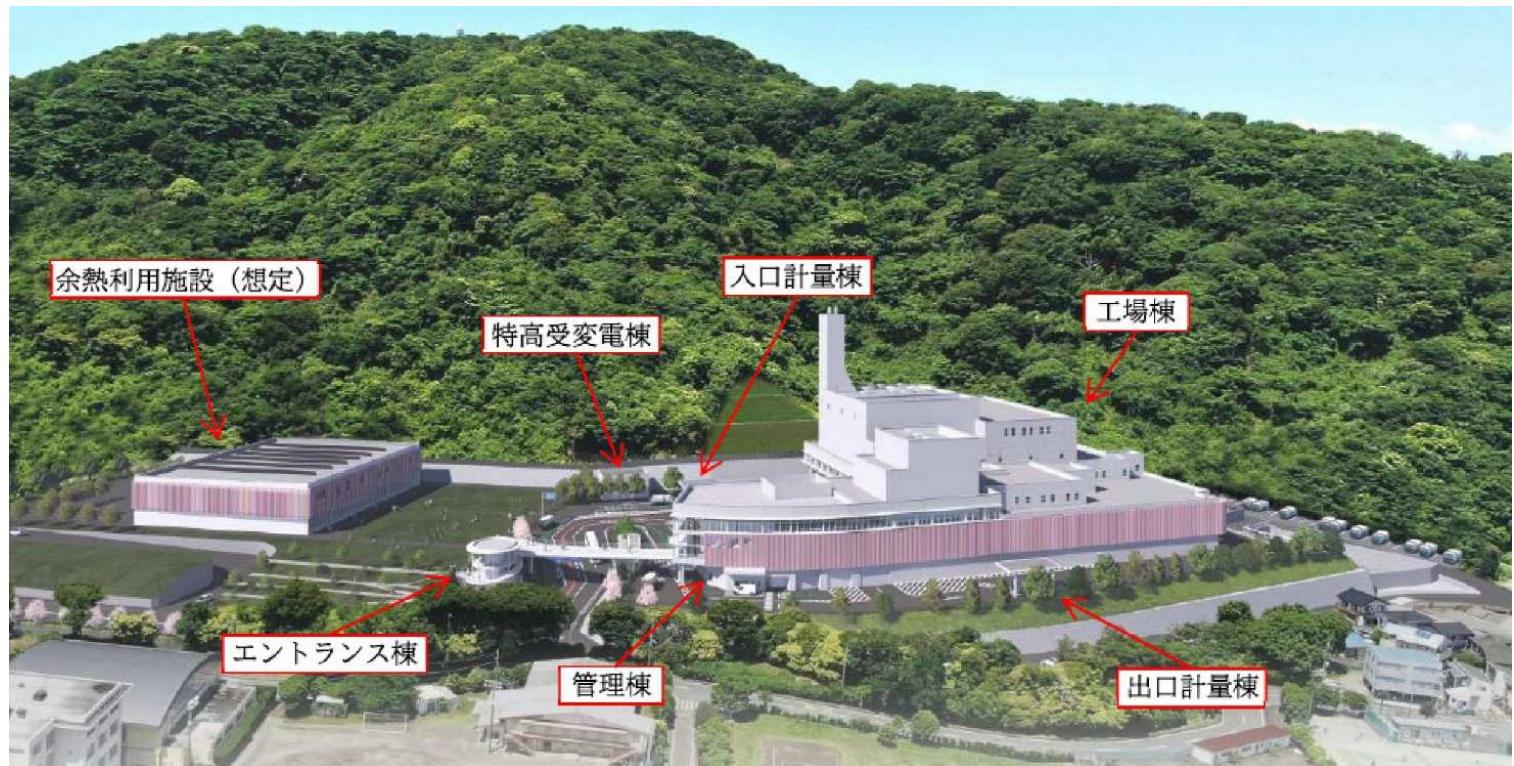




新しいごみ処理施設についてご紹介

1976年から約50年稼働しており、耐震性や老朽化に課題がある清掃プラント（ごみの焼却施設）を更新する議案が可決。「沼津市新中間処理施設」の建設工事費は約311億円、20年間の運営管理業務費は約187億円。一緒に施設を利用する清水町さんからも応分の負担をいただきます。整備場所は現在と同じ沼津市上香貫で、2029年度中に供用開始する予定です。より効率的なごみ処理が行える新施設ですが、ごみの出し方＝分別方法が大きく変わる予定はないとの答弁を受けています。



中間処理施設の主な役割

減量化：燃やしたり脱水したりすることで廃棄物の体積・重量を減らす
無害化：有害物質を分解・除去・中和して安全な状態にする
再資源化：リサイクル可能な資源（紙・金属・プラスチックなど）を選別・回収
安定化：埋立処分しても環境に影響を与えないように処理する



ごみ処理は ①収集・運搬 ⇒ ②中間処理 ⇒ ③再資源化 ⇒ ④最終処分の流れで行っており、新中間処理施設は②の部分を担います。

④については沼津市植田に埋立処分を行う最終処分場があり、1977年の供用開始以降 拡張整備を重ねながら稼働をしていますが、埋立できる容量が限界に近づいています。新たな候補地を検討しているものの選定が進まず、長年の課題として残っています。



「ウォーターPPP」について 静岡県が導入検討を開始

官民が連携して水道や下水道などの水インフラを運営する「ウォーターPPP」を国が推進しています。人手不足や老朽化が深刻化しつつある中、持続可能な事業とすることが狙いです。現在、市内の下水道処理区の一つである西部処理区(地図黄色部分)について、管理者の静岡県が基礎調査を実施中。その後の詳細検討には沼津市も参加し、検討結果を踏まえて参画を判断します。

汚水管を更新する際に国費支援を受けるためには「制度導入が決定済であること」が2027年度以降に要件化されます。漏水・陥没しないよう、適切に更新する観点からも、重要な判断となります。



スマホなどから道路や公園の不具合情報をお寄せいただけます

市が管理する道路・公園の不具合について、市の公式LINEを通じて情報提供いただけるようになりました。(電話による情報提供もこれまで通り行えます)

「道路に穴がある」「カーブミラーが曲がっている」「側溝が割れている」「公園の遊具が壊れている」「公園の樹木が育ちすぎている」など、お気づきになつた情報をお寄せいただけますとありがとうございます。LINEをお使いの方はぜひご協力ください。(名前や連絡先などの提供は不要です)

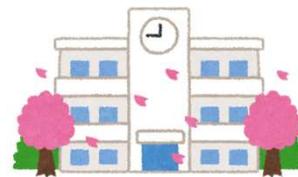


@numazu_city

市立小中学校の統合

第二小と千本小を第一小と統合、第二中を第一中と統合する議案が可決。より良い学習環境とするための学校統合で、新小学校は2026年4月、新中学校は2027年4月に開校の予定です。今回統合となる小中学校5校は児童生徒数が減っており、特に千本小については異なる学年をひとまとめにした学級(=複式学級)が始まっています。

現在、校名・校歌、通学方法や制服、学校跡地の活用などについて検討が進んでいます。



地域医療体制強化に係る研究会

議会の4会派有志で沼津市立病院の経営改善策などを研究する会を発足し、近隣市町との連携や市立病院の経営形態の見直しなどについて情報交換。この先も、市立病院との意見交換や有識者の招聘、研究会でまとめた要望の提出を予定しています。

市も診療体制の見直しや人員配置の適正化、管理システムの導入、施設の長寿命化、地域の医療機関との連携強化などに取り組んでいます。



ぬまづ
昔ばなし

ウォーターPPPの導入検討は2025年度中に終了。仮に導入となつた場合は2027年度中に入札・公募で2028年度中に契約・事業実施といったスケジュール。汚水管更新費は数千万円/年かかり、その半分の国費支援を受けられるかどうかは大きい。ぬまづ昔ばなし 第12巻 幽霊舟(第三地区)は10月発刊予定。

